



イエスはバイブルの中において「永の父」とは一度も呼ばれてはおらず、イザヤ9:6はされています。三位一体の教は、キリスト教徒が「位格を混同してはならず、体を分割してもならない」（アタナシウス教）といているため、三位一体者はイエスが「永の父」であることをどう受け入れるべきなのでしょう。では、さらなる事を公平さを心がけつつて行きましょう。

第一に、イザヤ 9:6のあらゆるは去形となっています。たとえば、キリスト教のバイブルが「その名はとなえられる」とする部分の「ヴァイクラ シェモ」は、正には「その名はととなえられた」となります。「ヴァイクラ」というはLeviticus (1:1)において最初に使用されており、そこでは正に去形としてされています。また、定においては同一のが世 4:26とイザヤ 5:25では去形となっています。イザヤ 9:6 7においてのみ、未来形として翻されているのです。

そこで「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた」とされているところに注目しましょう。それは既に起きた出来事であり、将来起きることではありません。イザヤは予言をしているのではなく、史を忠にしているだけなのです。未来の出来事であれば、それは「みどりごがわれわれのために生れる」となるべきですが、そうされてはいません。しかしキリスト教の翻では、これが「みどりご」が生まれる予言、また神の子が呼ばれることになる名前の予言であるとされています。

第二に、英の「is」はヘブライにはないものです。それがなくとも理解されます。たとえば、「ハケレヴ」（犬）と「ガドル」（大きい）が文章内でみ合わされた合ハケレヴ ガドル、ヘブライには「is」というがないものの、それは「犬は大きい (the dog is big)」を意味します。したがって、「みどりご」の名前についてより正な翻は、「くべき指者が、大能の神、永の父」となります。その名前は神を明しているのであり、その名前を有する者ではないことが分かります。イザヤという名前自体も「神は救である」を意味するものです。言者が人の身体をした神ご自身であるなどとはも信じていませんでした。

第三に、「大能の神」という翻 訳 的 ではないと、一部のバイブル学者たちによって指摘されています。英 語 では「God」と「god」が明白に区 別 されますが、大文字と小文字の区 別 のないヘブライ 語 ではそうすることはできません。ヘブライ 語 の「God」は英 語 のそれよりも使用 頻 度が大幅に 多い ものです。一部では、英 語 におけるより良い翻 訳 として「力なる英雄」あるいは「神のような英雄」を提案しています。マルチン ルタ とジェイムズ モファットは共に、彼らのバイブル 本においてその部分を「神のような英雄」と しています。

第四に、新 約 によると、イエスはその生涯において、一度もそれらの名前で呼ばれたことがないことが 示 されます。

第五に、イザヤ 9:6がイエスのことに言及をしていると なるのであれば、イエス自身が父 ということになります。そしてそれは三位一体 に反することになります。

第六に、新 約 がこの章句を引用していないという事 は、新 約 の著者自身さえもその章句がイエスへの言及であるとは 思 いません。

第七に、その章句はユダ王国の王ヒゼキヤのために、主によって行われた奇 について されたものです。イザヤ 9章のそれ以前の では、イスラエルの 軍事 的大 勝利について されています。イザヤがこの章句を 書いた 当 時、センナケリブ王の率いるアッシリア王国がヒゼキヤ王のエルサレムを包 囲 したものの、没落させることなく撤退しています。そこからの救出は 奇 的な方法によるものだったと されています。つまり、天使がアッシリア の 野 地へ赴き、185,000人の兵士たちを彼らの睡眠中に 殺 したとされています。目を 閉 じた センナケリブが兵士たちの大半が死亡していることに 気付くと、彼は生き残った兵士たちと撤退しますが、自らの子によって暗 殺 されます（イザヤ 37:36-38）。イザヤ の36、37章はヒゼキヤ王がいかにセンナケリブの大 軍 と彼らによる神への冒 犯 の言 に して断固として立ち向かったかについて されています。すべてが逆境にあるかに 思 えたものの、ヒゼキヤ王は主を信 じたため、奇 蹟 的 勝利をもたらされました。 味 深いことに、“主の 心がこれをなされるのである”という 述 述はイザヤ 9:7の他にはイザヤ 37:32、そして列王 下 19:31の2ヶ所だけでしか 出 現 することはできません。それらの章句は双方とも、神によるヒゼキヤ王の救出について 記 されているものです。こうして分かるように、イザヤはアッシリアによる包 囲 に しての、神によるエルサレムの保 護 について 記 しているのです。さらに、ソ

ンチ ノの注 によると、その章はアッシリアの没落とアハズの息子ヒゼキヤの 生を知らせるものであるとされています。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/267>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。